ベーちゃんの

みょうぎアレコレ通信

vol. 4

2023. 11. 26

——クマとお山と私たち——

クマの報道が世間をさわがせていますね。妙義もお山のある地域ですのでクマの目撃情報は毎年あります。今回はこのクマを通して「お山」や「自然」について考えてみましょう。

地球上には1000万種を超える種類の生物がいると考えられています。

そのたくさんの生き物ひとつひとつが、他の生き物と関わり合いながら生きています。そうした生き物たちと、それらが生きる自然環境を合わせて「生態系」というよ。

生態系の中でクマは**アンブレラ種**と呼ばれます。

アンブレラ種とは食物連鎖の頂点に位置する生物で、彼らが生きてゆくためには広い生息地と安定した環境が必要です。アンブレラ種を保護するということは、その生息地と環境を広く守るということでもあります。

傘(アンブレラ)を広げるように生物多様性が保護できることから「アンブレラ種」と呼ばれるのです。

実際、クマはお山の中での大切な種子散布者です。(木の実や果実をたべて、そのフンをまくのだ)

『クマが歩いたあとには木が育つ』

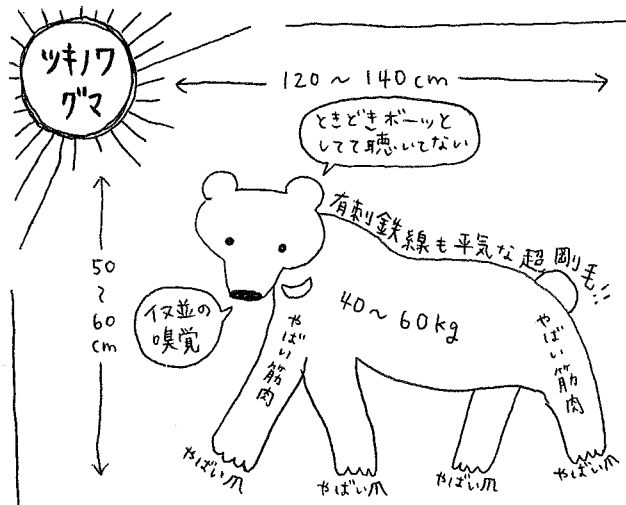
とも言われるそうです。

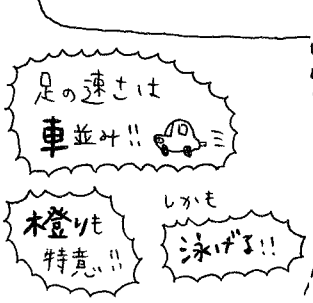
素敵な言葉ですよね。

クマは日本の国土の約4割に生息しています。

思ってたよりいるでしょ?

でも里に住む私たち人間と、お山に棲むクマは基本的にあまり接点がないから、クマについてみんなそんなに知りませんよね。というわけでこれを機に知りましょう!!





食べ物の9割は植物

春は芽吹いたやわらかい葉、夏はアリや八千などの昆虫類を多く食べ、秋になるとドングリなどの木の実をたくさん食べるよ。

もうね、クマにヒトはかないっこありませんよ。ムリムリ。

だからお山に入るときは

「クマに出会ったらどうするか?」よりも

「クマに出会わないためにはどうするか?」

を大切にして下さい。

例えば

① 見通しがきく道をあるく

変なガサガサの中とかに行かない。

② 周囲の音がしっかり聴こえるようにする

耳は出して。山がうるさい日(雨・風)はひかえる。

③ ときどき止まって周囲を気にする

野性動物のあるき方を見習って。

マタギの方々は3歩ごとに立ち止まるそう。

お山をつくり上げている一つ一つの命は互いに関わり合い、支え合い、つながっています。そしてお山の中は常に変化していて、変化をしながらバランスをとっています。(これを動的平衡というよ)

どんな変化にも必ず原因があり、それはとても複雑で、決してヒトの思惑通りにはいきません。

お山に暮らす人々は、その変化を『**お山の意思**』ととらえその変化に合わせて暮らすのです。

私たちもお山の一部。お山に入らせてもらうときはお山の意思をきちんと汲み取って、お山のマナーを守って入ろうね。

拝　ベー